# 令和 8 年度　第 2 回学校運営協議会 議事録

山梨県立やまびこ支援学校

## 会議概要

- **日時**：令和 8 年 10 月 29 日（木）13:30～15:00
- **場所**：山梨県立やまびこ支援学校 視聴覚室
- **出席委員**
  - 山本 剛 会長（都留文科大学 教養学部 学校教育学科特任教授）
  - 和智 浩二 副会長（前 PTA 会長）
  - 藤巻 豪 委員（大月市教育委員会 教育支援室 室長）
  - 山岸 優香梨 委員（就労支援センター いちごいちえ 施設長）
  - 雨宮 智美 委員（富士・東部教育事務所 主幹・指導主事）
  - 佐藤 まゆ 委員（富士・東部医ケア児支援センター コーディネーター）
  - 柴田 佳奈 委員（PTA 会長）
  - 金谷 愛枝（学校長）
- **学校側関係者**：保垣事務長、近藤教頭、髙杉教頭、杉澤教務主任、矢﨑生徒指導主事

## 会議内容

### 1. 開会のことば

### 2. 校長挨拶

- **金谷校長**：
  - お集まりいただいた委員の皆様への感謝を申しあげる。先日、小学部・中学部・高等部の修学旅行が実施され、児童生徒にとって素晴らしい経験・思い出となった。
  - 近隣での熊の出没・目撃情報が多発している。単独下校する生徒の安全確保のため、自主通学生に対して猿橋駅と直結するエレベーター乗り場までの送迎やスクールバスの活用などの対応を行っている。
  - 高等部生徒の 2 週間にわたる現場実習が終了した。本日は実習先の方々も来校し、カフェ（サービス班）を共に楽しんでいただいた。特に 3 年生にとっては進路決定に関わる重要な実習であり、これまでの経験を活かして納得のいく進路決定に繋げたい。

- 11 月 14 日（土）のやまびこまつり保護者観覧日に各学部の発表を実施予定。その際、学校運営協議会が主体となって推進する「マルシェ」へのお手伝い・ご協力をお願いしたい。

## 3. 議事（議長：山本会長）

### (1) いじめ防止対策について

- **説明：矢﨑生徒指導主事**
  - **取り組みの周知**：県教委の実態調査に基づき年 3 回のアンケート調査を実施しているほか、日常の観察により状況把握に努めている。基本方針はホームページで周知している。
  - **現状**：第 1 回・第 2 回調査ともにアンケートから「いじめ」として認知した事案はゼロであった。
  - **支援と対応**：障害特性やコミュニケーションの不一致、集団の場面でトラブルが生じることがある。形式的に判断せず、背景や受け止め方を丁寧に確認して対応している。
  - **未然防止**：ガイドラインやチェックリストを活用し、チームティーチングによる見守り、道徳教育・特別活動を通して未然防止・早期発見に努めている。
- **質疑応答・意見**：
  - **議長（山本委員）**：いじめ防止対策についての質問を確認。特に質疑はなく、次のテーマへ移行。

### (2) 学校評価（教員）中間報告について

- **説明：近藤教頭**
  - **前期の評価結果**：今年度から前期・後期の 2 期制へ移行し、前期終了時に教職員対象の学校評価アンケートを実施した。（38 項目、4 段階評価）。
  - **全体傾向**：総じて高い評価が多く、90%～100%の肯定的な回答が多数を占めた。
  - **課題として挙がった項目（12～14%程度が課題と回答）**：
    1. 適性や能力に応じた校内人事・校務分掌および意欲的に取り組める環境。
    2. 職員会議等における情報共有・課題解決の有効性。
    3. 業務の精選・効率化、ICT 活用による働き方改革の推進。
  - **教職員の記述意見・改善要求**：
    - **会議の効率化**：学部会での事前資料確認や会議の重複・スリム化、職員会議の簡略化。
    - **業務の偏り**：個人差の解消と業務分散。
    - **退勤時間の現状**：20 時前の完全退勤が定着しつつあり改善が進んでいる。
    - **業務の見直し**：AI・ICT（校務 DX）の活用、指導案・教材の共有化。

        - **休憩時間の確保**：生徒下校後の 45 分間の休憩時間確保の難しさに対する補填（夏休みに振替）としてまとめて取得するシステムの活用・高評価。
        - **職場環境**：管理職による配慮や巡回・声かけ、風通しの良い職場環境について肯定的な声が多数寄せられた。
    - **今後の取組**：
        - 議題と連絡・報告の分離による会議時間の短縮（17 時終了を目指す）。
        - 主事・主任層によるマネジメント強化、業務分担の見直しと平準化。
        - チームティーチングの体制見直し（手厚すぎる支援の見直しと児童生徒の主体性育成）。
        - ICT 支援員や校内ネットワーク活用による業務の効率化と Teams での情報共有の徹底。
- **質疑応答・意見交換**：
    - **委員**：基本の勤務時間は何時までか。
    - **近藤教頭**：勤務時間は 8:30～17:00 までの 7 時間 45 分（休憩 45 分）で、基本的であり、17 時過ぎに退勤する教員は比較的多い。
    - **委員**：アンケート結果のまとめが分かりやすく、具体的に意見が出されていて良い。
    - **金谷校長**：20 時完全退勤が「早い」と言ってしまう現状には課題があるが、特別支援学校では複数担任制（チーム）のため話し合いや連携に時間がかかる背景がある。また、急な年休や出張等の補講として空き時間が削られやすい。家庭がある教員も含め、さらに改善を図りたい。
    - **委員**：対策を打った結果として、今後は次回アンケートと比較できるデータ（数値の変化）を載せてほしい。
    - **近藤教頭**：1 月に年度末のアンケートを実施予定。次回は今回の数値と比較・検証できるように準備する。
    - **委員**：100%に近い高評価が多く素晴らしい。土日出勤の状況はどうか。
    - **近藤教頭**：土日出勤は非常に少なく、1～2 名程度である。月に 2 回金曜日に「きずなの日」を設定し 18 時完全退勤を推進しているが、その反動で土日に出勤する教員が増えることもなく、遠方通勤者も多いため休日出勤は定着していない。
    - **委員**：補講体制・手厚すぎる支援の見直しという視点は非常に重要である。教員が親身になりすぎて児童生徒についてしまい、友達同士の関わりが減ってしまうことがある。教員があえて一歩引く姿勢や児童生徒の主体性を育む視点が大切である。

**(3) やまびこまつり及びマルシェについて**

- **説明：近藤教頭**
    - **目的と背景**：地域とともに子供たちを育てるコミュニティ・スクール（CS）として、第 1 回協議会で賛同をいただいたとおり、学園祭（やまびこまつり）の日に福祉事業所を

招いた「マルシェ」を開催する。障害のある児童生徒の自立・社会参加支援と共生社会の実現、地域住民や福祉関係機関との連携や親交の深まりを目指す。
    - **校内での検討と実施規模**：かつて類似の取り組みがあったがコロナ禍や行事精選等で途絶えていた。新しい取り組みに対する教員の不安や慎重論もあったが、今年度は手始めとして「ミニマルシェ」という小規模な形で実施する。
    - **実施日時・日程（11 月 14 日（土）保護者観覧日）**：
        - 9:30～ 各学部の発表（～11:05）
        - 11:05～ 保護者向けマルシェ開始
        - 11:40～ 一般来訪者向けマルシェ開放
        - 午後は卒業生同窓会も開催され、卒業生・地域住民の来訪を見込む。
    - **会場**：視聴覚室にて開催。東部地区の福祉事業所 5 か所が対面販売を実施（長テーブル 5 台設置）。
    - **運営協議会委員へのお願い**：当日は学園祭を来賓として参観いただくとともに、マルシェでは「運営協議会委員」の腕章を着用して第三者の視点からマルシェを視察・協力いただき、今後の意見・アドバイスをいただきたい。
- **補足説明：山岸委員**
    - 事業所側としても大変ありがたい機会である。学校側の意向や思いに賛同した 5 事業所が当日参加する。
    - 当日参加できない事業者（東部地区の計 11 事業所のうち残り 6 事業所）のパンフレットや資料も展示し、地域の事業所を知ってもらう機会としたい。
    - 各事業所の卒業生も当日訪問することを非常に楽しみにしている。
- **質疑応答・意見交換**：
    - **委員**：ストップしていた取り組みが動き出すには大きなエネルギーが必要だが、この一歩を踏み出すことが素晴らしい。地域や卒業生の保護者からも「やまびこまつりの日にマルシェもあるんだってね、楽しみにしているよ」という声を聞いており、期待が高まっている。運営協議会としても最大限協力したい。
    - **金谷校長**：本日もカフェに地域の方々が多く来校され賑わっていた。学校が地域に認知されてきているのを感じる。当日も多くの方にお越しいただけるよう声かけをお願いしたい。

**(4) 意見交換**

- **柴田委員（PTA 会長）**：
    - 日頃の教育活動への感謝を申し述べる。
    - **医療的ケアについての意見**：教員が研修を受けても、現場に看護師がいないとケアを実施できない状況があると聞いている。教員が研修を受けても実施できない制限について、県教委や関係機関で少し制限を緩和したり、柔軟な構築ができないだろうか。教員の方々には十分すぎるほど対応していただき感謝している。

- **金谷校長**:
    - 咽頭前の吸引など教員ができる範囲には制限がある。現場に看護師がいることが絶対の安心につながるが、命に関わる緊急時には認められた範囲内で最善の対応をとる必要がある。本校は保健室の近くにケアを必要とする児童生徒の教室があり、看護師が素早く対応できる体制が整っている。教員としてできる最低限のケアはしっかり行っていく。
- **山本委員**:
    - 県教委での研修体制立ち上げの経験を踏まえると、手続きや認定の基準、手技の難易度の問題がある。安全性の確保が最優先だが、看護師と協力しつつ、教員の中で実施できる人を少しずつ増やし、協力体制を広げていくことが理想である。
- **佐藤委員**:
    - カフェ等で学校の様子が分かってよかった。医療的ケアに関しては看護師の配置や役割分担、労働者としての教員の負担など難しい問題があるが、見守りや手伝いから始めて実施できる人を少しずつ広げていく取り組みを進めていきたい。

## 4. 連絡・報告事項

- **今後のスケジュール**:
    - **第 3 回学校運営協議会**:11 月 14 日（土）9:30〜【やまびこまつり（来賓）およびマルシェ（協力）】
    - **第 4 回学校運営協議会**:1 月 28 日（木）13:30〜15:00
- **配布資料の確認**:
    - 学校だより「やまびこ」第 1 号（地区回覧等でマルシェの宣伝も掲載）
    - やまびこまつり案内チラシ
    - 第 3 回学校運営協議会依頼文
    - PTA 新聞
- **研修会の案内**:
    - 11 月 26 日開催の「地域と学校の連携協働にかかる研修会」の案内。参加希望者は来週までに申し込みを行うため、本日または後日連絡をいただきたい。

## 5. 閉会のことば

- **司会（髙杉教頭）**:
    - 本日は長時間の審議およびカフェ・作業製品の購入等にご協力いただき感謝申し上げる。11 月 14 日のやまびこまつり・マルシェに向けて、全職員一丸となって準備を進めていく。これをもって第 2 回学校運営協議会を終了とする。